

English Garden 第49話

"The peace must be founded upon the intellectual and moral solidarity."
"UNESCO Constitution" No.2

「平和は、人類の知的および精神的連帯の上に置かれなければならない」 「ユネスコ憲章」その2

ユネスコの役割は、「教育、科学、文化を通して諸国民のあいだの協力を促進」し、「人類の知的および精神的連帯の上に」永続的な平和を築くことです。それが「ユネスコは国際連合の魂」（設立総会でのフランス代表の演説）といわれる所以です。

1946年にユネスコが創設されたとき、日本はまだ連合国軍の占領下におかれており、食糧事情も悪く、ほとんどの国民は毎日の生活に精いっぱいでした。けれども11月25日付で朝日新聞が第1回ユネスコ総会について初の報道をすると、ユネスコの高い理念は多くの人の心をとらえて強い共感を呼び、「国際連合から除外されている国でもユネスコに参加できる可能性があるなら、まずユネスコに参加しよう」との気運が高まりました。

日本で最初にユネスコ協力の意向を表明したのは日本ペンクラブ(志賀直哉会長)で、1947年2月に戦後の新しいペンクラブを出発させる再建大会を開いた際に、ユネスコへの協力を新規約の中に盛り込んだのでした。

1947年7月には世界で最初の民間組織(NGO)である 仙台ユネスコ協力が発足しました。発会式のすぐあと、創設者の一人である東北大学教授で英文学者の土居光知氏は、請われてユネスコ事務局長のジュリアン・ハクスレー宛てにメッセージを送りました。これは日本の民間ユネスコ協力運動の動きをパリに伝えた第一報でした。戦後の窮乏生活でレターペーパーがなくて、障子紙を代用したということです。この手紙の反響は大きく、11月にメキシコシティで開かれた第2回ユネスコ総会では日本の民間ユネスコ運動が紹介され、日本を仲間に迎え入れようとの提案がなされるようになりました。仙台ユネスコ協力の発足を契機に、主要新聞はこぞってユネスコ加盟を願う社説などを掲載するようになり、ユネスコ運動は民間・非政府レベルで盛り上がってきました。2ヶ月後に京都にも協力が生まれ、11月には日比谷公会堂で第1回日本ユネスコ運動全国大会が開催されました。このときはNHKが参加を呼びかけたこともあって、会場に入りきれない聴衆が場外でスピーカーに耳を傾けるほどでした。続いて奈良や神戸にも協力が誕生、東京にはユネスコ学生クラブが結成されました。

翌1948年、全国的な広がりを見せる組織を束ねる機関として 日本ユネスコ協会連盟が結成され、会長に仁科芳雄氏を選出、事務局が東京に置かれることになりました。

1951年、このような全国的なユネスコ運動の盛り上がりの結果、日本は60番目の加盟国として念願のユネスコ加盟を果たしました。なお、国連への加盟が承認されたのは5年後の1956年のことで、80番目の加盟でした。

日本の民間ユネスコ運動には、富士通も大きな足跡を残しています。和田恒輔元社長は1958～59年、日本ユネスコ協会連盟(以後日ユ協連)の監事を勤め、岡田完二郎元社長・会長は1967～70年同じく日ユ協連会長を勤め、山本卓真名誉会長(元社長・会長)は1994年に会長に就任、現在にいたっています。

また、職場の中で日本で最初にユネスコ活動を始めたのは、富士通川崎工場のユネスコ友の会でした。当時日ユ協連の会長だった岡田完二郎社長の、ユネスコの理念に寄せる熱い思いに共鳴して結成されたもので、1966年に登山家の横有恒氏をゲストに発会式をあげました。

富士通ニュース "F-Pal" の1995年 1/2月号には、特集として日ユ協連の会長に就任された山本会長(当時)のユネスコについてのインタビュー記事と、ユネスコ友の会歴代会長のメッセージが載っています。ご参照ください。

私はかつて日ユ協連の事務局で「ユネスコ新聞」の編集に携わったことがあり、ユネスコのこととなるとつい饒舌になって、肝心のユネスコの事業について触れるスペースがなくなってしまいました。このテーマはまた取り上げたいと思います。

参考文献:

- 「ユネスコで世界を読む」日本ユネスコ協会連盟編、古今書院刊、1996年。
- 「ユネスコ 50年の歩みと展望」野口昇著、シングルカット社刊、1996年。

